

日韓知的障害者・文化スポーツ交流

静岡県ハンディキャップサッカー委員会

〒410-0022 静岡県沼津市大岡 3155-9 勝又 将也宅内

助成事業の概要

仁川広域市の知的障害者スポーツ協会を通して、互いの地域の社会参加を促進するために、サッカーや文化活動の交流を行う。

(1) 友だちについて考える場を設け、紙面で発表できた。それぞれの気持ちを鑑みることができた。

(2) 歓迎の言葉を皆で作ることで、改めて静岡県の良さについて考える機会になった。

(3) 積極的にコミュニケーションをとることをテーマに、仁川広域市の選手と静岡県の選手が食事をする場を設定した。そのため、通訳ボランティアを配置することにした。

(4) サッカーだけでなく互いの文化を知るために、地域の太鼓クラブとの交流を行なった。

(5) サッカーの試合を通して、互いの健闘を称えたり、共に更に旨くなりたいという気持ちをもったりすることで、目標を持って生きることの大切さを学ぶ。

事業の成果

今回は、18歳以下の交流とした。大きな理由は、特別支援学校時代に、努力することや夢を持つことの大切さを感じるとともに、多くの仲間に伝え

てほしいと考えたからである。

まずは、事業の準備段階で、「友だちになる」を大きなテーマに、自分なりの友だち像を考える機会を作った。テーマとしては、漠然としていて難しかったようだが、仁川広域市の選手からは、友だち像（資質）が浮かび上がってきた。静岡の選手からは、サッカーを通しての憧れが友だち像にあるのがわかった。どちらにしても、憧れ、モデルというものを持っていることは大切だと考える。

静岡の良いところをプレゼンテーションにまとめることはできなかったが、選手皆で歓迎の言葉を考える機会を作れた。「自然がいい」、「富士山がある」など意見交換をする中で、郷土に対するイメージを再度持つことができたと感じている。

今回は、選手同士が一緒に行動したので、通訳ボランティアを介しながらも、仕事のこと、学校のことなどコミュニケーションを積極的にとっていた。通訳ボランティアを通さなくても「おいしい」、「飲む？」などジェスチャーでかなりの会話をしていた。障害があると内にこもりがちになるが、環境を整えることで、海外の方たちとも主体的に関われることがわかった。

御殿場市の富岳会の地域の太鼓の練習会に参加した。地域の子どもたちが厳しい練習をしているのを見て驚くととともに、演奏から伝わってくる情熱に両国の役員、選手から大きな拍手がわき上がった。太鼓の体験では、皆、積極的に取り組み、太鼓の指導者と即興の曲を楽しむものもいた。

今回の交流では、互いに同じテーマを考えたり、体験したりする中で、「主体性」をはぐくむこと

ができることを確認した。静岡の選手には、個々で感じたことを各特別支援学校や施設にいて、伝えたり実践したりするように課題を与えた。この成果が、高校生年代の夢となって育まれることを期待している。

■ 成果の広報・公表

選出された選手の出身学校、施設については、選手からの報告をお願いした。各々口で感じたことを、団体の長に伝えたり、仲間に伝える機会を設けたりした。

サッカーに関しては、部活等で学んだ成果を発表する機会を設けた。更に海外との交流の楽しさも伝えるようにした。また、9月の県内の大会で、チームとしての結果と学んだことの発表を障害者スポーツ協会に行なうことにしている。

報告書については、できるだけ交流の様子が見えるものを 200 部作成し、静岡県障害者スポーツ協会、静岡県内の特別支援学校や関係福祉団体に配布する。その際に、障害者の生涯学習、生涯体育、健康に目を向けていただくように依頼した。更に静岡県のサッカー協会に会議への出席を依頼し、この報告書を使って、障害者のスポーツ参加の重要性を訴えることにした。

■ 今後の展開

来年度は、仁川広域市で行なう予定である。サッカー、文化の交流を更に深めることで、多くの知的障害者に「夢と希望」を育みたい。更に、共に活動する機会を設けて、「主体的な交流」を期待したい。交流の対象は、18 歳以下として新たな選手が交流できるようにする。積極的な交流を促すため、「たくさんの友だちを作るコツ」といった意見の交換をするようにしたい。交流内容は、サッカーだけでなく、テコンドーや

韓国の食等をテーマに共に行なう、楽しむ交流を企画したい。

なお合わせて、アジア地域の知的障害者のスポーツ促進を目的に、韓国のスポーツ状況調査あるいは台湾での知的障害者サッカー状況の調査等も始めたい。